医療・福祉・介護・保健に係る「たからづかモデル」の検討について

1. これまでの検討状況について（P1－6）
2. 今後のスケジュールについて（P7）
3. ご意見をいただきたい論点について（P8－9）

1. これまでの検討状況について

たからづかモデルの検討の枠組み

施政方針（抜粋）

市民の皆様の命と健康を守る機能をより一層高める

庁内検討会

たからづかモデル基本方針

医療・福祉・介護・保健の効果的・効率的な連携を図ることで、市民サービスを向上させるとともに、持続的に提供可能な仕組みを構築する。

期待される効果

- 障碍者・高齢者施策、健康増進の充実
- 各施設の人的・物的資源の有効活用による効率的運営
- 市の財政負担の軽減（市民負担の軽減）

実現のために為すべきこと

- 施設統合を考える 複合化・効率化 **第1分科会**
- 市立病院の役割 経営改善・機能向上 **第2分科会**
- ネットワーク構築 経営改善・機能向上 **第3分科会**

分科会での検討

1 これまでの検討状況について

たからづかモデルの検討の枠組み

1. 検討の目的

市立病院の建て替えを機に、医療、福祉、介護、保健に係る資源を有効活用するためのネットワークを構築し、市民の命と健康を守る機能をより一層高めることを目的とする。

具体的には、市立病院を中心とした、健康センター、子ども発達支援センター、ステップハウス宝塚、国民健康保険診療所などの関連施設の統合や連携の検討の他、民間医療機関や福祉・介護施設などとの連携方策についても検討を行う。

2. 検討事項

Ⅰ　施設の統合

市立病院の建て替えに伴い、健康センター、子ども発達支援センター、ステップハウス宝塚等を市立病院の既存棟に整備することについて検討を行う。

Ⅱ　市立病院の役割

新病院が担うべき役割や、医療・福祉・介護・保健分野に関する民間施設との連携について検討を行う

Ⅲ　施設間のネットワーク構築

市立病院、健康センター、子ども発達支援センター、ステップハウス宝塚、国保診療所等におけるネットワーク構築を検討するとともに、運営の効率化についても検討を行う。

施設統合の方向性や新病院が担うべき役割など、策定中の新病院整備基本計画に反映すべき内容について優先的に検討する。民間施設との連携や施設間のネットワーク構築などは、長期的に検討する。

1. これまでの検討状況について

たからづかモデルの検討の枠組み

3. 検討体制

庁内検討会　検討会会長：市長

分科会会長
副市長

分科会1【施設統合】
関係委員で構成

分科会2【市立病院】
分科会会長
市立病院総長
関係委員で構成

分科会3【ネットワーク】
関係委員で構成
分科会会長
副市長

関係委員
- 企画経営部長
- 企画経営部市立病院経営改革担当部長
- 企画経営部財務担当部長
- 市民交流部長
- 総務部長
- 総務部経営改革担当部長
- 都市整備部長
- 健康福祉部長
- 子ども未来部長
- 市立病院幹部職
- 市立病院経営統括部長

意見聴取 →
← 意見

懇話会
・公募市民　・知識経験者

事務協議
・関係各課

事務局
企画経営部
市立病院経営改革担当

- ☑ 庁内検討会においては、検討事項ごとに関係部署で構成する分科会を設置するとともに、各種検討事項のとりまとめを策定する。
- ☑ 分科会においては、課題整理や専門的な検討、調査研究等を行い、その検討状況を庁内検討会に報告する。
- ☑ 懇話会においては、公募市民や知識経験者から、各検討事項における課題や方向性、とりまとめ（案）に対して様々な視点による意見を聴取する。
- ☑ 事務協議においては、庁内検討会や庁内分科会の検討状況に応じて、関係各課で必要な資料の収集、課題整理などを適宜行う。
- ☑ 事務局は、企画経営部市立病院経営改革担当とする。

1. これまでの検討状況について

たからづかモデルの検討の枠組み

4. これまでの検討の流れ

	第１分科会 施設の統合	第２分科会 市立病院の役割	第３分科会 施設間のネットワーク構築
STEP1	1. 各施設の機能確認 各施設ごとに実施機能を整理	1. 検討すべき事項の整理 第2分科会で検討すべき事項を整理 新病院整備基本計画(素案)の内、改めて検討すべき事項の整理	1. 各施設ごとの機能整理について 各施設ごとの課題を整理
STEP2	2. 市立病院への施設統合の可能性 市立病院での検討 現病院での受け入れ、既存棟の活用	2. 各施設との連携 ○ 施設一覧 ①国民健康保険診療所 ②子ども発達支援センター ③ステップハウス宝塚 ④健康センター ○ 連携の検討内容 ・各施設への医師派遣 ・各施設との機能統合	2. 市立病院との連携強化 市立病院での説明、検討内容の確認 市立病院での対応検討
STEP3	3. 各施設間の連携方策 施設統合をたからづかモデルの推進の観点から検討	3. 市立病院が担うべき役割 診療機能の見直し、機能統合等の可否を検討 新病院整備基本計画(素案)の内、改めて検討すべき事項の検討	3. 各施設間の連携方策 各施設間の連携の強化について、たからづかモデルの推進の観点から検討

各施設の検討状況のまとめの作成（第1回懇話会時点）

1 これまでの検討状況について

各施設の検討状況のまとめ

① 健康センター	検討内容	方向性※	方向性(確認)→確認された内容 方向性(継続)→今後の対応	参考資料
本設の設置場所(移転先)	移転案のメリット・デメリット整理	確認	移転先は病院敷地内とする	P6, 7
仮設の必要性、設置場所	移転案に係る仮設の必要性、設置場所	継続	移転先を踏まえて決定	P6, 7
機能の整理	病院敷地内での機能ごとの配置、運営	継続	機能ごとの必要条件を踏まえて継続検討	P2, 3
医師の確保	健診業務に係る管理医師の条件整理及び市立病院医師の配置可能性	継続	配置可能性について継続検討	P3
② 子ども発達支援センター	**検討内容**	**方向性※**	**方向性(確認)→確認された内容 方向性(継続)→今後の対応**	**参考資料**
本設の設置場所(移転先)	病院敷地内への移転案	確認	移転先は病院敷地内とする	P6, 7
病院敷地への統合	園庭の確保策や環境面での課題	継続	病院敷地内への移転案について継続検討	P6, 7
機能の整理	病院敷地内での機能ごとの配置、運営	継続	機能分解はできないと判断 一体での移転の可否を検討	P4, 5
医師の確保	必要な医師の条件整理及び市立病院医師の配置可能性	継続	配置可能性について継続検討	P4
③ 国民健康保険診療所	**検討内容**	**方向性※**	**方向性(確認)→確認された内容 方向性(継続)→今後の対応**	**参考資料**
医師の確保	必要な医師の条件整理及び市立病院医師の配置可能性	確認	市立病院医師の配置決定	P8

※方向性　確認:検討会で方向性が確認できた　継続:引き続き内容整理して検討する

1 これまでの検討状況について

各施設の検討状況のまとめ

④ ステップハウス宝塚	検討内容	方向性※	方向性(確認)→確認された内容 方向性(継続)→今後の対応	参考資料
病院既存棟への統合	統合による診療報酬上の影響	確認	既存棟への統合は困難 今後、建物維持の方策ついて検討	P9－11
市立病院との連携	連携方策(共同委託、人材交流)	継続	可能な連携方策について継続検討	P9－11

⑤ 宝塚市立病院	検討内容	方向性※	方向性(確認)→確認された内容 方向性(継続)→今後の対応	参考資料
産科の標ぼう	産科標ぼうの可能性 (市内分娩状況、医師確保・収支を踏まえ)	確認	産科の標ぼうは困難 今後、市内3産科との連携検討	P12
精神科の標ぼう	精神科の標ぼうの可能性 (周辺状況、当院での対応状況を踏まえ)	確認	精神科の標ぼうは困難 今後、他の専門医療機関との診療連携を検討	P13
がん診療連携拠点病院の国指定	国指定の条件確認及び課題整理	確認	課題解決を図り、国指定を目指す	P14
人間ドックの実施	既存棟活用を前提とした実施可能性	継続	委託内容、運営課題を継続検討	P15
緩和ケア医療	緩和ケア医療の方向性、病棟・病床の整理、病床配置場所や職員配置	確認	緩和ケア医療は維持する 一般病棟との併設整備による運用とする	P16
災害拠点病院	災害拠点病院を継続する上での課題	継続	認定要件やコストなどを考慮しつつ、災害拠点病院を維持する方向で継続検討する	P17

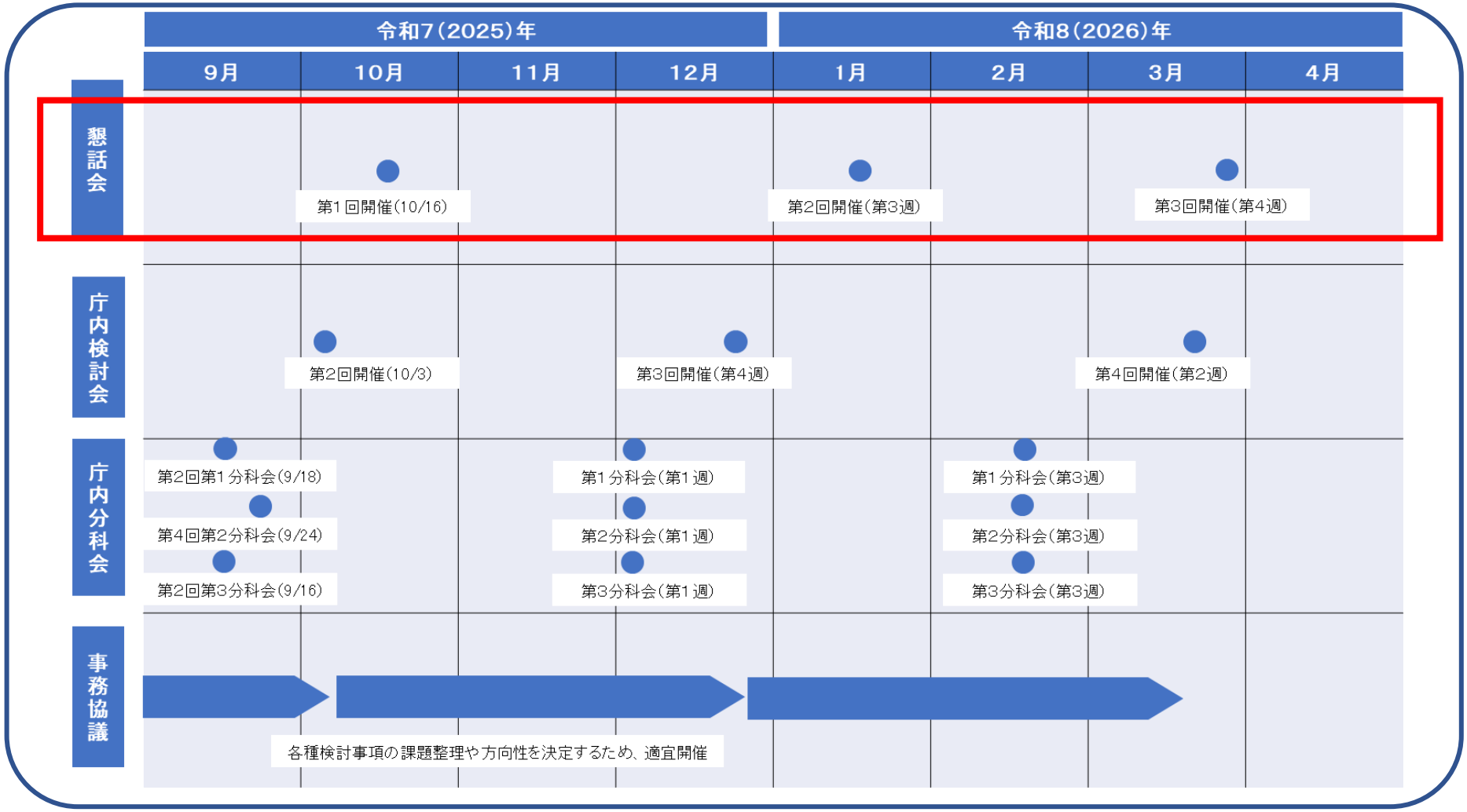
※方向性　確認:検討会で方向性が確認できた　継続:引き続き内容整理して検討する

2. 今後のスケジュールについて

第 2 回(1月中旬)　各分科会からの検討結果報告(第1回での意見への対応状況)

※健康センターの先行解体に影響する内容を優先　※第2分科会に関しては、基本計画案に反映すべき内容を中心に議論

第 3 回(3月下旬)　民間施設との連携推進の方向性、取りまとめ内容の確認



3. ご意見をいただきたい論点について

① 施設集約化による連携効果について

市立地適正化計画では、コンパクトなまちづくり、市公共施設等総合管理計画では、機能移転、統合、複合化などが示され、集約化が求められている。

地域医療構想では、例えば急性期、回復期、慢性期病院ごとの役割や介護・福祉施設における役割を明確にした上で、医療連携、医療・介護連携を図ることが推奨され、遠隔診療やリモートワークなどITを活用した連携による効率化も期待されている。

本市では既存棟周辺の病院敷地の活用を視野に、健康センター、子ども発達支援センター、ステップハウス宝塚との施設集約化の可能性について検討を行なっているが、これらの施設が集約することで、どのような連携を図ることができ、どのような効果が期待できるかご意見いただきたい。

② 経営効率化について～組織・人材・費用削減など～

これまで、本市の医療・福祉・介護・保健サービスについては、健康センター、子ども発達支援センター、国民健康保険診療所は宝塚市（直営）、ステップハウス宝塚は公社（民営）、市立病院は地方公営企業による運営の下、市民に提供されてきた。

今後、たからづかモデルにおいて経営効率化を検討していく中で、組織・人材・費用削減などの観点ら、どのような方策が考えられ、どのような効果が期待できるかご意見いただきたい。

3. ご意見をいただきたい論点について

③ 医療従事者の確保について

各施設の医療従事者の確保について、子ども発達支援センター、国民健康保険診療所では、特に医師の確保が難しい状況となっている。

各施設への市立病院医師の配置については、市立病院には急性期医療に特化した専門性の高い医師が多いため、対応できる医師が限られる。

一方、市立病院では特に看護師の確保が喫緊の課題となっている。

各施設の連携を視野に入れながら、今後、各施設において安定的に医療従事者を確保するための方策についてご意見いただきたい。

④ 新病院が担うべき役割について

新病院においても、地域の中核病院として急性期医療を引き続き提供していくこととしている。

新病院の病床規模については、今後の入院需要推計を基に、コロナ禍後の入院受療率、平均在院日数の適正化や診療機能の方向性、運営の効率性などを総合的に判断し、現時点ではおよそ310床程度を適正な病床数として設定している。

診療科については、保健医療計画で定められている「5疾病」「6事業」への対応や市内医療機関との連携を踏まえ、30診療科とする予定だが、「産科」、「精神科」の設置や「緩和ケア医療」の継続に対する要望が寄せられている状況である。

たからづかモデルの検討に際し、関連施設の集約化、市民ニーズ、外部環境（少子高齢社会、人口減少等）、本市の医療提供状況等の観点から、新病院で担うべき役割（病床規模、診療科等）について、ご意見いただきたい。

⑤ その他

今後検討すべき論点について、（1）から（4）の論点以外に、何かご提案等があれば、ご意見いただきたい。